

平成 21 年度事業計画案

(平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日)

1. コンクリートに関する調査研究

(1) 研究委員会所管の委員会

(A) 平成 21 年度継続する委員会

- 1) コンクリートセクターにおける地球温暖化物質・廃棄物の最小化に関する研究委員会
(平成 20～21 年度)
- 2) コンクリート材料ならびに関連規格の国際調査研究委員会
(平成 20～21 年度)
- 3) 混和材料から見た収縮ひび割れ低減と耐久性改善に関する研究委員会
(平成 20～21 年度)
- 4) 性能指向型耐震補強研究委員会
(平成 20～21 年度)

(B) 平成 21 年度に設置される委員会

- 1) セメント系材料の自己治癒技術の体系化研究委員会
(平成 21～22 年度)
- 2) コンクリートと補強材の付着定着挙動と構成則の利用研究委員会
(平成 21～22 年度)
- 3) プレキャストコンクリート製品の性能設計と利用技術研究委員会
(平成 21～22 年度)
- 4) 高性能膨張コンクリートの性能評価とひび割れ制御技術の海外展開研究委員会
(平成 21～22 年度)
- 5) コンクリートに関連する品質基準・試験方法の解釈研究委員会
(平成 21～22 年度)
- 6) コンクリートの高温特性とコンクリート構造物の耐火性能研究委員会
(平成 21 年度)

(2) 技術委員会所管の委員会

- 1) コンクリート基本技術調査委員会
- 2) マスコンクリートソフト作成委員会
- 3) コンクリート構造物の長期性能シミュレーションソフト作成委員会
- 4) 「コンクリートのひび割れ調査、補修・補強指針」英語版作成委員会
- 5) 「マスコンクリートのひび割れ制御指針」英語版作成委員会
- 6) 既存コンクリート構造物の性能評価指針作成委員会
- 7) 残コン・戻りコンの発生抑制及び有効利用に関する技術検討委員会

(3) 標準化委員会所管の委員会

- 1) コンクリート試験方法 JIS 原案作成委員会
- 2) ISO/TC71 (コンクリート) 対応国内委員会
- 3) アジアモデルコード研究委員会
- 4) JCI 規準委員会

(4) 電子情報化委員会

(5) コンクリートの収縮問題検討委員会

*** 研究専門委員会等の活動計画**

(1-A-1) JCI・TC081A コンクリートセクターにおける地球温暖化物質・廃棄物の最小化 に関する研究委員会 (平成 20~21 年度)

「物質フローWG」では、材料・産業毎に文献調査・アンケート調査を行って、材料・産業・地域ごとの詳細な物質フローの実態と将来像を表す図を作成する。「インベントリデータWG」では、インベントリデータを算出するためのデータの取得方法、計算手順、それらの利用方法に関する基本的ルールを構築する。「ポートフォリオWG」では、環境負荷低減要素技術の抽出を行い、短期的な CO₂ 削減目標、中長期的な CO₂ 削減目標を設定し、これらを達成するためのポートフォリオシナリオを構築する。また、廃棄物の発生予測とそれらの処理方法についても検討する。「社会システムWG」では、「ポートフォリオWG」シナリオを実現するための社会制度や施策について検討する。「fib ロンドンシンポジウムおよび ISO/TC71/SC8 対応WG」では、ロンドンシンポジウムの fib-JCI 特別セッションの設計・運営を行うとともに、ISO/TC71/SC8 規格作成に寄与するための関連情報の整理を行う。

(1-A-2) JCI・TC082A コンクリート材料ならびに関連規格の国際調査研究委員会 (平成 20~21 年度)

材料関連国際調査については、今後、アンケートの回収と回答結果の分析、国際会議に向けた論文作成、国際会議での報告 (Keynote 講演を予定) を予定している。国際会議は本年 8 月 24 日 (月) ~ 26 日 (水) に名古屋国際会議場で開催予定であり、論文採択審査、招待講演・Keynote 講演を含めた研究発表セッションプログラムの立案、技術展示・見学会など国際会議公式行事の詳細など、具体的な開催計画を策定するとともに、会議開催期間中の運営を行うこととしている。

(1-A-3) JCI・TC083A 混和材料から見た収縮ひび割れ低減と耐久性改善研究委員会 (平成 20~21 年度)

「品質・性能 (ひび割れ) WG」では、混和材を使用したコンクリートの収縮ひび割れ抵抗性の評価試験について、「品質・性能 (耐久性) WG」では、耐久性を考慮したセメント・混和材の性能規定型規定のあるべき姿の検討とプロトタイプの枠組みの提案を、「規格・施

工 WG」では、実構造物が曝される環境条件も考慮した養生が混和材を用いたコンクリートの品質に及ぼす影響を、「利用検討 WG」では、混和材の使用状況とその効果についての調査とそれらに基づく解析を行う予定である。これらの結果について総合的な検討を行い、混和材の使用方法に関して今後のあるべき姿について提案する。

(1-A-4) JCI・TC084 A 性能指向型耐震補強研究委員会 (平成 20～21 年度)

耐震補強における目標性能および制約条件と「研究」、「設計」および「実施例」との関わりについて調査を進める。研究 WG は目標性能を満たし制約条件を克服するための最近 10 年間の工法開発について調査し、設計 WG は「復旧性」と構造物が保有すべき性能、想定地震動に対する性能評価法について調査する。実施例 WG は目標性能および制約条件に対応させて実施例データを収集する。また、委員会報告会と同時に開催することを希望して、ACI-369 (耐震補強) 委員会に呼びかけている JCI-ACI Joint Workshop の実施に向けて準備を進める。

(1-B-1) JCI・TC091 A セメント系材料の自己治癒技術の体系化研究委員会 (平成 21～22 年度)

「セメント系材料の自己修復性の評価とその利用法研究委員会 (TC075B)」での研究成果をベースに、次の WG を立ち上げ自己治癒技術の体系化をはかり、補修技術の一つとして普及させることを目的とした活動を行う。自然治癒のモデル化→モデル化 WG、適用時の設計方法→適用 WG、実際のコンクリートで検証→共通試験 WG、検査・評価方法の確立→検査・評価 WG。

(1-B-2) JCI・TC092 A コンクリートと補強材の付着定着挙動と構成則の利用研究委員会 (平成 21～22 年度)

鉄筋コンクリート部材の脆性的な破壊の一つに付着破壊・定着破壊が挙げられるが、ミクロ的な応力の伝達、各材料の構成則、マクロレベルでの連鎖的破壊等、種々の要因が影響し合って、その解明は非常に難しいものとなっている。

本研究委員会では、付着定着挙動をミクロ的に捉え、特に有限要素法における付着構成則の構築とその適用可能性の検討を視野に入れつつ、付着定着挙動に関する情報整理とその利用に関する提案を行うことを目的とした活動を行う。

(1-B-3) JCI・TC093 A プレキャストコンクリート製品の性能設計と利用技術研究委員会 (平成 21～22 年度)

PCa 製品、およびこれを用いた構造物の適切な性能設計と利用技術を整備することは、わが国の社会基盤を信頼性のあるものとするためにもコンクリート技術者の使命である。

JCI-TC071A 委員会 (プレキャストコンクリート製品の設計と利用研究委員会) の成果を踏まえつつ、PCa 製品ならびにこれを用いた構造物の性能設計手法に資するための技術資料を構築することを目的とした調査研究活動を行う。

**(1-B-4) JCI・TC094 A高性能膨張コンクリートの性能評価とひび割れ制御技術の海外展開
研究委員会（平成 21～22 年度）**

近年、建築・土木の分野で高性能の膨張コンクリートや、膨張コンクリートの性能評価方法が数多く提案されてきている。膨張コンクリートの挙動は配合、温度、養生、環境条件などに大きく影響を受ける複雑なものである。先人たちの研究成果を踏まえて、建築・土木の各規準・指針に取り込むための膨張コンクリートの適切な性能評価方法を構築することを主たる目的とした活動を行う。

**(1-B-5) JCI・TC095 Aコンクリートに関連する品質基準・試験方法の解釈研究委員会
（平成 21～22 年度）**

JIS に規定されているコンクリート関連の品質基準や試験方法の制定経緯や目的、あるいは規定されている事項や数値等の本来の意味・解釈等について、正しく認識されずに、規定内容の遵守や国際規格・関連法令等との運用上の整合性のみが議論されることが多い。

本委員会では、コンクリート関連の品質基準や試験方法を正しく理解し、コンクリート関連技術の正しい理解と活用を目的に、それらの制定経緯・目的ならびに規定内容を精査し、コンクリートの品質評価ならびに品質確保に寄与する解説書的な技術資料として取りまとめることを目的とした活動を行う。

**(1-B-6) JCI・TC096FS コンクリートの高温特性とコンクリート構造物の耐火性能研究委員会
（平成 21 年度）**

地中に構築される土木構造物や高強度コンクリートを用いた建築物などは、火災に対する安全性が強く求められている。本研究委員会は、現状では必ずしも明確ではないコンクリートの（超）高温時における特性と火災時における構造物の耐荷性や変形性との関係を、最新の実験結果や解析手法により明らかにすることを主目的とした活動を行う。

(2-1) コンクリート基本技術委員会

前年度活動した コンクリートの打込み・締固め技術、コンクリートの養生技術、コンクリートの不具合補修技術、の 3WG に加えて、圧送 WG 等の基本技術 WG を発足させ活動範囲を拡大する。これらの成果は、会誌等で情報発信していく。

また、コンクリートポンプ施工技術調査委員会が作成する「JCI コンクリート圧送工法ガイドライン」および圧送に関する技術資料をテキストとして、6 月に東京で講習会を開催する。

(2-2) マスコンクリートソフト作成委員会

3 月にレンタルを開始した JCMAC3 のバージョンアップ、ならびに既に作成して販売している JCMAC1 および JCMAC2 のフォローを行うとともに、1 と 2 の統合化を検討する。

(2-3) コンクリート構造物の長期性能シミュレーションソフト作成委員会

コンクリート構造物の高度劣化シミュレーションソフト LECCA ver.2.0 について、劣化現象を塩害、中性化および凍害、中性化および凍害に限定したものを暫定的に完成させ、8月に市販する。その後も、シミュレーション精度の向上、ならびに化学的侵食等その他の劣化現象シミュレーションモデルの構築などに取り組む。

また、LECCA ver.1.0 のユーザー対応とバージョンアップについて、引き続き取り組む。

(2-4) 「コンクリートのひび割れ調査、補修・補強指針」英語版作成委員会

本協会では従来から、コンクリートのひび割れ対策について、積極的に取り組み、1980年に「コンクリートのひび割れ調査、補修指針」を発表して以来、二度の改訂を経て、本年3月に「コンクリートのひび割れ調査、補修・補強指針 - 2009 - 」を刊行した。

前回(2003年)改訂の際も英訳版を刊行し、フィリピン、タイ、シンガポール、バングラデッシュのアジア諸国において講習会を開催して、本協会活動の紹介も行い、現地の学協会および参加者の好評を博した。

このたびの改訂版についても、東南アジアを中心とした海外において、講習会を開催し、本協会の活動を海外に広めるため英語版作成を行う。

(2-5) 「マスコンクリートのひび割れ制御指針」英語版作成委員会

マスコンクリートのひび割れ制御指針改訂委員会では、昨年11月に「マスコンクリートのひび割れ制御指針 2008」を策定した。このような高い水準のコンクリート工学技術については、独立したものが諸外国に存在しないので、本指針を英文化して広く諸外国に紹介する。本年度は、本指針の中で英文化すべき部分を選別する。

(2-6) 既存コンクリート構造物の性能評価指針作成委員会

JCI-KCI Joint Committee では、年2回日韓双方が各々の研究成果を持ち寄って、意見を交換することにより、既存コンクリート構造物の性能評価基準を作成すべく取組んできた。

その結果を基に、基準原案を英文で作成し、2009年2月には ISO/TC71/SC7 へ提案した。しかし、基準原案は基本原則が示されたに過ぎないため、性能評価の具体的な仕事に結びつけるためには、その内容をより詳しく取扱った技術指針が不可欠である。したがって、これまでの JCI-KCI Joint Committee の活動で積み上げてきた成果を基に、既存コンクリート構造物の性能評価指針を作成し、性能評価の発注者や技術者にその拠所となる技術指針を提供する。

(2-7) 残コン・戻りコンの発生抑制及び有効利用に関する技術検討委員会

残コン・戻りコンを対象として、発生抑制のための具体的な方策の検討、有効利用方法の提案、さらには環境への負荷低減などの評価を検討することが急務と考えられ、本課題の整理・検討、発生抑制と有効利用に向けた技術資料の整備をすることにした。三つの WG を設

置して活動を行い、アンケートによる実態調査、発生抑制および有効活用の現状調査と研究推進活動などを行う。

(3-1) コンクリート試験方法 JIS 原案作成委員会

平成 22 年度、23 年度に見直しが予定されている次の JIS に関し検討を行い、必要に応じ、改正原案を作成する。

JIS A 1103(骨材の微粒分量試験方法), JIS A 1101(コンクリートのスランプ試験方法), JIS A 1115 (フレッシュコンクリートの試料採取方法), JIS A 1116 (フレッシュコンクリートの単位容積質量試験方法及び空気量の質量による試験方法 (質量方法)), JIS A 1119(ミキサで練り混ぜたコンクリート中のモルタルの差及び粗骨材量の差の試験方法), JIS A 1122 (硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験方法), JIS A 1128 (フレッシュコンクリートの空気量の圧力による試験方法 (空気室圧力方法)), JIS A 1136 (遠心力締固めコンクリートの圧縮強度試験方法), JIS A 1137 (骨材中に含まれる粘土塊量の試験方法), JIS A 1138 (試験室におけるコンクリートの作り方), JIS A 0203 (コンクリート用語), JIS A 1109 (細骨材の密度及び吸水率試験方法), JIS A 1110 (粗骨材の密度及び吸水率試験方法), JIS A 1134 (構造用軽量細骨材の密度及び吸水率試験方法), JIS A 1135 (構造用軽量粗骨材の密度及び吸水率試験方法)

(3-2) ISO/TC71 対応国内委員会

(1) ISO 規格案 (CD , DIS , FDIS , 等) への対応

ISO/TC71 および各 SC から提案される各種規格案等に対し、詳細な検討を行い投票等に対応する。また、日本から提案した ISO 規格案について各国との調整を図り、早期の規格化を目指す。

(2) ISO/TC71 および各 SC への対応

ISO/TC71 および各 SC の会合等に積極的に参加し日本としての意見を主張する。

(3-3) アジアモデルコード研究委員会

本年度は、ACMC2006 に基づいたレベル 3 コードとして、平成 20 年度に原案作成を行ってきた「鉄筋コンクリート構造物の耐震設計の技術の現状」(設計 WG)、「自己充填コンクリートの設計・製造・施工」(材料・施工 WG) および「中性化の影響を受けた構造物の維持管理手法」(維持管理 WG) を完成させて、ICCMC より出版する予定としている。また、「既存構造物の耐震診断・耐震補強」に関しては、平成 20 年度に引き続いて設計 WG と維持管理 WG と合同で作業を行って、ISO 規格の WD として完成させる。また、材料・施工 WG では、ICCMC が ACF より経済的支援を受けて実施する「アジア地域におけるコンクリートの種類・生産量および使用材料の種類ならびに環境負荷量の調査」を主導的に計画・実施することを予定している。さらに、アジア各国に対して日本のコンクリート技術を発信す

るとともに、日本国内への ICCMC の周知のための継続的な広報活動も本委員会の活動目的の中に含まれており、経済産業省の「社会環境整備・産業競争力強化型規格開発事業」として採択された「コンクリート構造物のライフサイクルマネジメントに関する国際標準化」の活動の一環として、アジアの各国と共同して、「既存コンクリート構造物の耐震診断および耐震補強」、「コンクリートおよびコンクリート構造物の環境ラベリング」および「コンクリート構造物のライフサイクルマネジメント」に関して、ISO 規格提案のための原案作成作業を行っていく予定である。

(3-4) JCI 規準委員会

研究委員会等が提案した規格案・規準案に対し、JCI 規準としての要件を備えているか否かを審議、ISO、JIS 等の動きを見据えて、必要に応じた調整を行っていく。

(4) 電子情報化委員会

電子情報化による JCI の様々な活動へのメリットならびに電子情報の有効利用方法を検討する。また、電子媒体を通じて、広く社会や会員に有用な情報を提供できるように、他委員会との連携を視野に入れて活動する。具体的には以下の活動を予定している。

- ・ 各種活動における電子情報の有効利用方法の検討
- ・ 既出版物のデジタルアーカイブによる資料保存の検討
- ・ メールニュースの作成および配信
- ・ ホームページ（協会、研究委員会等）作成支援
- ・ デジタルアーカイブによる、時間的、地理的な制約を超えた資料提供に関する議論
- ・ 以上の内容を短期、中期、長期目標に区分して具体的な作業項目を示す「電子情報化委員会アクションプラン 2010」の提案

(5) コンクリートの収縮問題検討委員会

前年度委員会での討議内容をまとめ、7月に東京および大阪において、中間報告会を開催する。

また、報告会で得られた意見や情報を参考にして、さらに議論を深め、コンクリートの収縮に関する対応についての委員会提案を纏める。

2. 国際的協力および交流

- (1) fib Steering Committee に代表委員を派遣する。
- (2) ACI 国際委員会等に代表委員を派遣する。
- (3) RILEM TAC 会議に代表委員を派遣する。
- (4) ISO / TC71 総会に審議団体である対応国内委員会から委員を派遣する。
- (5) ACF（アジアコンクリート連盟）の諸事業活動を、引き続き支援する。

(6) OWICS (シンガポール) 国際会議に , 例年通り代表委員を派遣する。

(7) KCI (韓国) , TCI (台湾) と情報交換を行う。

3 . 会誌・論文集・研究報告・図書等の刊行

(1) 会誌「コンクリート工学」

月刊「コンクリート工学」を毎月 1 回刊行して会員に頒布する。

特集テーマは次のとおりである。

- | | |
|-------------------------|--------------|
| 1) コンクリート技術を次世代に活かすために | 平成 21 年 5 月号 |
| 2) インフラをマネジメントする | 平成 21 年 9 月号 |
| 3) 題未定 | 平成 22 年 1 月号 |

(2) コンクリート工学論文集

コンクリート工学論文集を年 3 回 (5 月 , 9 月 , 1 月) 刊行し , 会員に頒布する。

(3) Journal of Advanced Concrete Technology

英文ジャーナル “Journal of Advanced Concrete Technology” を年 3 回刊行し , かつ WEB (J-Stage) で検索・閲覧ができるようにする。

(4) 次の論文集を刊行する。

- 1) コンクリート工学年次論文集 第 31 巻 2009 年 (CD-ROM 版)
- 2) ConMat'09 (第 4 回建設材料に関する国際会議) 論文集

(5) 次の研究報告書を刊行する。

- 1) プレキャストコンクリート製品の設計と利用研究委員会報告書
- 2) ピロティー式構造物およびラーメン高架橋の耐震性と耐震対策研究委員会報告書
- 3) プレストレス技術の有効利用研究委員会報告書
- 4) 品質試験方法と施工時諸特性との相関性評価研究委員会報告書
- 5) セメント系材料の自己修復性の評価とその利用法研究委員会報告書
- 6) コンクリートの収縮問題検討委員会 (中間) 報告書

(6) 下記の出版物を刊行する。

- 1) 第 42 回コンクリート技術講習会テキスト「コンクリート技術の要点'09」
- 2) 平成 21 年度コンクリート技士研修テキスト
- 3) コンクリート診断士講習会テキスト「コンクリート診断技術 '10」
- 4) コンクリート圧送工法ガイドラインおよび技術資料

(7) 「各研究委員会報告書」要旨の英訳を行う。

4. 講演会・講習会・シンポジウム等

(1) コンクリート工学年次大会

コンクリート工学年次大会 2009(札幌)を平成 21 年 7 月 8 日(水)・9 日(木)・10 日(金)の 3 日間、札幌コンベンションセンターにおいて開催する。

主な行事は次の通り。

- 1) 第 31 回コンクリート工学講演会
- 2) リサーチプラザ：研究委員会によるポスターセッション
- 3) 特別講演会：「地球環境システムにおける寒冷圏の役割」
講師：北海道大学名誉教授 若土正暁氏
- 4) 研究集会：3 研究委員会による研究成果の発表と討論会
- 5) 生セミナー：「コンクリートの乾燥収縮に対する現状の問題点」
- 6) 見学会：1) 北海道横断自動車道と夕張シューパロダム
2) ‘北彩都あさひかわ’JR 旭川駅高架化工事現場
- 7) フォトコンテスト：テーマ〔自然と共生するコンクリート〕
- 8) コンクリートテクノプラザ 2009，および技術紹介セッション
- 9) 懇親会：札幌コンベンションセンター

(2) 国際会議

ConMat'09 (第 4 回建設材料に関する国際会議)を 8 月 24 日から 26 日までの 3 日間、名古屋国際会議場において開催する。

(3) コンクリート技術講習会

第 42 回コンクリート技術講習会を 2 日間の会期で、平成 21 年 10 月、東京など全国主要都市において開催する。

(4) シンポジウム・セミナー・講演講習会

研究委員会報告会、シンポジウム等を次の通り開催する。

- 1) 品質と安全を確保するためのコンクリートポンプ圧送工法ガイドライン講習会
6 月 24 日 品川区立総合区民会館(きゅりあん)
- 2) コンクリートの収縮問題検討委員会(中間)報告会
7 月 2 日 品川区立総合区民会館(きゅりあん小ホール),
7 月 6 日 大阪 建設交流会館(グリーンホール)
- 3) 品質試験方法と施工時諸特性との相関性評価報告会
7 月 31 日 東京理科大学森戸記念館
- 4) プレキャストコンクリート製品の設計と有効利用に関する報告会
8 月 7 日 日本大学 CST ホール

- 5) セメント系材料の自己修復性の評価とその利用法報告
開催日・会場 未定
- 6) プレストレス技術の有効利用報告会
開催日・会場 未定
- 7) ピロティ式構造物およびラーメン高架橋の耐震性と耐震対策報告会
開催日・会場 未定
- 8) JCI-KCI Joint Committee/コンクリート構造物の長期性能シミュレーションソフト
作成委員会合同報告会
開催日・会場 未定

5. 資格試験・登録・研修

(1) コンクリート技士・同主任技士

- 1) コンクリート技士・同主任技士試験
コンクリート技士，同主任技士の資格試験を 11 月 29 日（日），全国 9 都市において実施する。主任技士第一次試験合格者については，平成 22 年 1 月下旬に第二次試験（口述試験）を東京において行う。
- 2) コンクリート技士・同主任技士の登録
コンクリート技士制度に基づいて，コンクリート技士，同主任技士試験合格者の登録，ならびに登録有効期間（4 年間）満了となる資格者の申請により更新登録を行う。
- 3) コンクリート技士研修
コンクリート技士制度に基づくコンクリート技士研修を，登録有効期間（4 年間）満了となるコンクリート技士資格者および未登録者を対象として，6 月 30 日から 8 月 6 日にかけて，全国 11 都市 25 会場において実施する。

(2) コンクリート診断士

- 1) コンクリート診断士講習会
コンクリート診断士講習会を 2 日間の会期で，4 月 2 日から同 28 日にかけて，全国 9 都市 12 会場において開催する。
- 2) コンクリート診断士試験
コンクリート診断士の資格試験を 7 月 26 日（日），全国 9 都市において実施する。
- 3) コンクリート診断士の登録
コンクリート診断士試験合格者の登録，ならびに登録有効期間（4 年間）満了となる資格者の申請により更新登録を行う。
- 4) コンクリート診断士研修

登録有効期間(4年間)満了となるコンクリート診断士資格者および未登録者を対象として、コンクリート診断士研修を10月に全国7都市8会場において実施する。

6. 表彰

本協会刊行物に発表された論文・技術報告等の業績により、コンクリートに関する学術・技術の進歩・発展に顕著な貢献をしたと認められたものに対し、「日本コンクリート工学協会・協会賞(論文賞,技術賞,奨励賞)」を、コンクリート構造物の美的表現あるいは環境との調和に貢献したと認められたものに「同(作品賞)」を、そして本協会事業の発展のために、長年にわたり顕著な功労・功績のあった会員に「同(功労賞)」を贈り表彰する。

7. 名誉会員の推挙

定款第12条に基づき総会の議決を経て、若干名の会員に名誉会員の称号を贈る。

8. 広報活動

社会一般に向けた啓蒙活動として、JCI ホームページの充実を図ると共に、会誌「コンクリート工学」、パンフレット等により本協会の活動状況等について広報活動を行う。

9. 公益法人制度改革への対応

本年2月・3月定例理事会に諮り、承認された公益法人制度改革対応委員会の中間答申に則り、本協会は公益社団法人を目指して、次の通り公益認定申請の準備を進め、平成22年5月の通常総会で最終方針の決定と定款改定を行い、同年8月を目途に公益認定の申請を行う。

- 1) 本協会の各種事業を、公益目的事業と収益事業等に区分して整理する。
- 2) 定款・規則その他公益認定のため、見直しを要する規則の改定を関係委員会で行う。
- 3) 公益事業比率を、将来的にも50%以上確保できるかの検討を継続する。
- 4) 関係学協会の動向をウォッチングする。

なお、公益法人制度改革対応委員会は、平成22年3月までに理事会へ最終答申を行う。

10. コンクリート構造物のライフサイクルマネジメントに関する国際標準化

経済産業省の「社会環境整備・産業競争力強化型規格開発事業」として採択された「コンクリート構造物のライフサイクルマネジメントに関する国際標準化」の活動の一環として、アジアの各国と共同して、「既存コンクリート構造物の耐震診断および耐震補強」、「コンクリートおよびコンクリート構造物の環境ラベリング」および「コンクリート構造物のライフサイクルマネジメント」に関して、ISO規格提案のための原案作成作業を行う。